

月歩学歩

“月日を歩き、学んで歩く” 明德の「今」を伝える月刊誌「げっぼがっぼ」

受け継がれる バトン

年が明けて1か月。短大では、1年間の学びをまとめる時期になりました。1年生は保育所・施設実習で、2年生は各授業の発表などで、それぞれが学んできたことと向き合っています。その一方で、自分たちの経験を伝えようと、2年生が1年生に向けて様々なメッセージを発信する姿も見られるようになりました。旅立つ2年生から次代を担う1年生へと受け継がれようとしている、想いのこもった「バトン」。今月号では、各学年の発表会の様子と共に、先輩から後輩へと寄せられた声をお届けします。



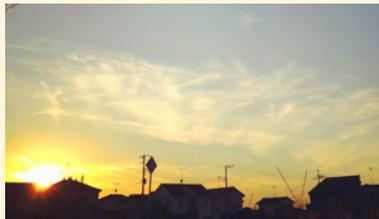
特集 2年生から1年生へ

(P.2-7) →



1年生の12-1月 (P.8-9)

「基礎ゼミ発表会」を終えて



2年生の12-1月 (P.10-11)

「保育・教職実践演習、こども臨床学、保育者論」発表会を終えて

教員からのおすすめ

(P.12)

卒業生の今

東 沙也加さん (P.13)

!hot news!

今月の明德速報
(P.14-15)

特集 2年生から1年生へ



1月26日より1年生の保育実習が始まりました。保育所と施設にて初めての長期間にわたる実習です。1月14日には、この実習を応援するべく、学友会と有志の2年生による「実習いってらっしゃ会」が開催されました。例年、保育実習指導Iの授業の中で、1年生が2年生の実習体験を聴く機会を設けており、今年も12月に実施しましたが、この会は、その授業の続きをやりたいという学友会の申し出により実現したものです。

そもそもこの会は、1・2年生がもっと関わる機会を増やしたいという学友会メンバーの想いから始まりました。そのために、11月から、どのような会が実行できるかと何度も話し合い、企画の全てに意図と願いを込めて、丁寧に計画している姿がありました。そして、皆が楽しく有意義な時間を過ごせるようにと、細やかに配慮しながら夜遅くまで準備を進めながら当日を迎えました。

当日は、一人ひとりの役割を明確にしながら、1・2年生とで協力しておにぎりや豚汁を作り、それらを食べながら談笑しました。会の途中では、実習に向けたアドバイスを全体に向けて2年生が話す場面もありました。このように、学生が2コマの授業を全て仕切り進めたことは、初めてのことでないでしょうか。2年生の想いのつまった会であったと同時に、1年生が自ら動く姿も見られ、学生の学び合う力を感じた会となりました。

この会の中心となった学友会会長を始め、数ヶ月後に卒業を控えた2年生のまなざし、1年生へのメッセージ、それを受けての1年生の想いなどを、本特集でご紹介したいと思います。



学友会会長より 皆さんへ

2年：今村 彩香さん 

1月14日に行った「実習いってらっしゃ会」、いかがでしたか。私はこの会を、「実習の楽しみや悩みなどを1年生が相談でき、2年生が送っていただけるような時間を作りたい」という想いで開催しました。実習については、「まずは楽しんでほしい」「困ったことがあったら学校の先生や友人に頼っていいんだよ」ということを伝えたいと思っていました。

また、この会は、形としては実習についての会でしたが、私はその他にも願いがありました。それは何かというと、当日にお話ししたと重なりますが、もう一度ここに記したいと思います。私は、「いつものグループの人とは違う人と関わってみよう」「小さな挑戦を1つしてみよう」、そんなことを願っていました。普段の輪から離れ、関わりのない人と話をしてみることで、自分が勝手に抱いていたイメージとは違うことがわかったりします。まずはそのような経験をしてほしかったのです。そして、1つでもいい、どんなに小さなことでもいいから挑戦してみてほしいと願うのは、受け身ではなく、自らが活動の中に楽しさを見つけてほしいと考えていたからです。このように、さまざまな人と関わること、受け身ではなく自分から楽しみを見つけるということは、実習やこれから保育者となる上でも大切なことであるように思っています。



さて、このような願いを持って行った「実習いってらっしゃ会」では、嬉しいことがたくさんありました。まず、1年生の中に自分で気づいたり、自ら動いている人がいたことです。自分が担う役割以外のことを行い、お互いに協力している姿が見られました。また、会をやらせ側ではなく、「みんなで楽しもう！」と会を作る側として楽しめた人もいたと思います。2年生は、これまでの実習やイベント、サークル活動などで学んできたことを生かし、お互いに声を掛け合って動いていました。行動力がいろいろな場面で見られました。さらに、2年生が緊張しながら1年生と一生懸命に話している姿を見て、2年生の想いのある行動に気づき始めた1年生もいました。

2年生だって、その活動に単位が出るか出ないかで参加を決める人もいます。気づいたことも、誰かがやってくれると思いきや、やらない人もいます。他のことに手一杯で、気づいていてもできない人もいます。しかし、これらはすべて、悪いことではないと私は思います。いろんな人がいますから、そういう中で、何か一つのことをみんなでするのがむずかしいのはあたりまえ。でも、不可能ではないと思っています。いろんな人がいることを認め合い、いろんな人同士で考えることが大切だと思います。

1年生には、自分の得意なところを生かしたり、挑戦したりしてみしてほしいです。もっともっと学校を活用し、楽しんでほしいです。学校の授業を受ける側、なんでもしてもらおう側にいるのはもったいない。短大生活で疑問に思うことがあれば、まずは先生方に聞いてみたらいいと思います。不可能と思わず、声に出してみたらいいと思います。

最後に、1年生にとって2週間にわたる実習は初めてですが、途中で悩んだり迷ったりしたときには、先輩に連絡してくれれば話を聴くので、自分一人で抱え込まないでほしいと思います。そして何より、実習そのものを、自分のできることに挑戦しながら楽しんで下さい！

改めて、5月号で紹介した「学友会会長として」の今村さんの宣言を読むと、この時の宣言通りに1年間躍進していたことがわかります。



私の理想を書きたいと思います。大きな夢は、ひとりひとりが充実した学校生活を過ごし、笑顔でまともな学校になったら嬉しいな、ということです。

少し現実的に言うと、サークル内だけでなく、学校全体の1・2年生がもっともっと仲良くなりたいです。4・5月、1年生からは、2年生に対する憧れの気持ちと共に、「2年生こわい」という声が聴こえます。この声は、きっと、「怒られてこわい」のではなく、「知らない年上の先輩だから」なのではないでしょうか。中学や高校では、先輩や後輩の壁があることが常識だから、それは当然だと思います。ですが一方で、2年生も、新しく入学し、関わりのない1年生に対して、「1年生こわい」という声が聴こえます。

私はその現状を知って、どうしたら1年生と関わられるかな？と思い、入学当初挨拶を心がけましたが、相手のことを知らない挨拶だけでもなかなか勇気が必要でした。

1年生のみなさん！実習園が一緒の2年生、仲良くなりたい面白そうな2年生、話してみたい2年生はいませんか？2年生のみなさん。昨年2月に行われた「学びの成果発表会」の時、もっと早くから先輩と関わってみたいという声を聴きました。自分自身、そうでした。学園祭もありますが、同じ仲間同士、もっと早くから関わられたらな、そうしたらもっと学校生活が充実しそうだな、と思いませんか？

私たちは今、自分達で活動できる環境の中にいます。こうしたらもっと良くなるんじゃないか、このままじゃあまりよくないのではないかと、思うことを、思ったままにせず、私達で創ってみませんか？

今、私は学友会長を自ら望んでやっています。うまくまとめられなかったり、伝えられなかったり行動できなかったり苦戦することも多々ありますが、それは自分の課題だと思っています。そして、時に焦り悩みますが、やりたいことなので苦ではありません。とても楽しいです！

みなさんも興味のあること、好きなことから、学生生活をより良くしていきましょう！！これから1年、共に活動よろしく願います！

2年生から
1年生へ

2年：遠山 委主さん

この学校で一番強く感じたことは、「出会いが大切」ということです。ふりかえりのレポートを書く時にも、実習やボランティアで出会った“人”のことが一番印象に残っていました。だからといって、学校の授業に意味がないわけではありません。自分の思考を整理し、言葉に表すためには、学校の授業も大切でした。先生—大人は、知識や経験の量が豊富で、教えられることが多くありました。いろんな先生—大人と話す時間はとても大切だと思います。自分は高校までは先生に対して壁があり、あまり関わることはありませんでした。1年生の皆さんもそうかもしれませんが、その壁は取り払ったほうがいいと思います。この学校の先生方との出会いは、自分にとってとても大きかったです。

2年：杉本 裕樹さん

ついに卒業間近になりました。

明德で過ごした日々の中で特に変わったことと言えば、やはり自分自身の考え方だと思います。

私は何かを考えた際に、一度「こうだ!」と思ったら、他が見えにくくなってしまいう癖がありました。しかし、最初は深く考えないでしまっている、ゼミや現代社会論などの授業で人の話や意見を聞いていると、そんな考え方があるんだ、人って十人十色なんだ、と考えさせられました。だから、先生だけでなく、友達の話も真面目に聞いて、受け入れれば、自分の見える世界も大きく変わるんだということを、伝えたいと思います。

またそれと同時に、自分の意見をしっかりと持つことも大事だとも考えます。そうすれば、他の人の考えを聞いたとき、意外性を感じられたり、その人とお互いに学びに繋がることもあるからです。

自分なりの考えを持ちつつも、他の人の考えをしっかりと聞き、受け入れること。これは私にとってとても大事なことなのだ気づきました。私なりの明德での学びには、これが大きく影響しているのだと思っています。

これからも実習に授業にと、まだまだ辛い、乗り越えないといけないことはたくさんあると思いますが、自分自身と学びのために、頑張ってください。

2年：松本 遥さん

今、学生生活で何を楽しんでいますか？ きっと、実習中ということもあり不安でいっぱいだと思います。私はそんな時、子どもの笑顔に助けられました。

辛くなった時、前を向くよりも、子どもや利用者さんをよく見てあげてください。失敗することは怖いと思いますが、そんな時に助けてくれるのは相手です。これから、まだまだ実習があり、そのたびに不安になると思います。これは、私たちも同じでした。どうしたいか決めるのは自分です。でも、周りには、色々な人がいてくれることを忘れないで下さい。

2年生になり、心に余裕ができ、サークル、学生生活を楽しめると思います。より、自分たちらしい学校になるよう、積極的に何事にも参加してみてくださいね！！ あと少し、就職に向けて、頑張ってください！！

2年：五十嵐 春奈さん

この2年間、私にとっては実習がとても大きかったです。施設実習には本当に行きたくなかったけど、行ってやりきったら、自分が変わったことを感じました。そして今、私は施設への就職が決まりました。

綺麗事かもしれないけれど、何事もやらないまま答えを出さないことが大切だと思います。無理だから、と決めつけてやらないより、やった方がいいと思います。やってダメでもそれはその人次第で、やらないで決めつけるよりいいと思います。今までの価値観に縛られず、実習は、実習というだけではなく、自分へのチャレンジだと思ってほしいです。あと、受け身だと自分自身もつまらないと思うので、自分からチャレンジして、頑張ってください！

1年：妹尾 明希さん・高尾 麻衣子さん

質問に対して親身になって答えてくれた方が多かったので、実習や学校生活の不安が軽くなりました。社会人になっても頑張ってください。

学校行事への取り組みが積極的で前向きですごいなと思いました。先輩たちに教わったことを伝えていきたいです。感謝の思いでいっぱいです。

1年生から
2年生へ

1年生の12-1月

「基礎ゼミ発表会」を終えて

柴田 大輔

前期の「学びの入り口プログラム」を経て、学生一人ひとりが自らの関心に基づいて選んだ多種多様な基礎ゼミも、終盤を迎えました。それぞれのゼミの成果を共有するため、1年生全体での「基礎ゼミ発表会」を行いました。その様子について、総合演習担当の柴田先生からご報告です。



12月17日、後期の基礎ゼミ発表会が開かれました。今回の発表会は前半・後半の2回に分けて取り組んできた1年生のゼミ活動の総決算となるものです。学生の皆さんは半年にわたる基礎ゼミの中でどんなことに取り組み、何を学んできたのでしょうか。発表会の様子を中心に、これまでの基礎ゼミでの取り組みを振り返りたいと思います。

基礎ゼミでは「学生自身の興味・関心に基づき、自主的に取り組むこと」を目標に掲げ、教員と一緒にさまざまなことに取り組んできました。全15コースからなる基礎ゼミでは、子どもと関わる取り組みだけではなく、「手話合唱」「農家体験」「24時間ウォーク」「学内ライブ」など、バラエティーに富んだ内容の授業が展開されてきました。その内容は一見、保育に直接関係ないように思われるかも知れませんが、子どもの成長に携わり、子どもとともに育つ存在である保育者を目指す学生の皆さんにとって、子どもと関わることだけではなく、その他、さまざまな体験の中から得たことや学んだこと、その全てが自身の成長の糧となっているのです。

発表会は全員が一か所に集まるのではなく、学校全体を使って行いました。学生は自分のペースに合わせ、学内各所で行われている発表を見てまわります。これは「自分の興味・関心に基づいてゼミを選択し、取り組む」という基礎ゼミの理念に沿ったものであり、形式に捉われない基礎ゼミらしい発表と言えるものでした。自分たちはどんなことに取り組んできたのか、また自分のゼミ以外の仲間たちにどんなことを伝えたいのか。ゼミの仲間たちと相談し、工夫を凝らした発表の数々。それを楽しそうに見てまわる学生たちの姿が印象的でした。

学びは与えられるものではなく、自らの意志で取り組む中で、模索し作り上げるものです。そこで得られた学びは一人ひとり異なります。基礎ゼミの取り組みを通じて、自分はどんなことを学ぶことができたのでしょうか。また将来に向けてどんな想いを抱いたのでしょうか。

最後に、取り組みを終えた1年生の皆さんの声を紹介したいと思います。

<学生の声>

- ・自分は今後何が必要か、何が大切かを将来に向けて考えて、2年生のゼミを選択したい。
- ・もっと子どもと関わりたい。働き始めた時に使える知識や技術など多くのことを学べると思った。
- ・「楽しい」だけに取り組んでいいのか疑問に思う。「自分が楽しいこと」ではなく「子どもたちの楽しいこと」を探したい。
- ・今、ここでしか出来ないこと。今を精一杯生きることを生涯忘れないで過ごせる原点となる学びがしたい。
- ・自分の知らない世界が沢山あることを知った。それは自らが行くことで体験できるものだと思った。
- ・人に左右されるのではなく、自分が本当にやりたいことを一生懸命に取り組みたい。どの先生も一生懸命に考えてくれているのだと思った。
- ・1年間のゼミ取り組みを通じて「できた!」「こういう風になるんだ」「どうしたら楽しくなるのか」という思いが出るようになった。自分たちなりに考えて体験しながら、色々な友達と関わり、学ぶことが多くあった。
- ・自分に限界に挑戦する事はどれだけ大変かを知った。限界を知ると周りの有難味や家族の支え等、色々な事を見直すことはできる。自分の知らない自分を見出したい。



基礎ゼミ発表タイトル	発表概要
ミニシアター	全員で製作した「ヒーロー映画」のデモ映像を放映
筑波山登山写真展	「限界にチャレンジ」をテーマに取り組んだ登山の写真展
写真から観える自分の視点	「SEKAI」をテーマに撮影した写真展
農家体験	農家で体験したことについて発表
夢中になって遊ぶ	「ルールのない遊び」「ルールのある遊び」の体験
映像の中の“子ども”から、様々なことを考える	映像の中の“子ども”から考えたことについてポスター発表
学内路上ライブを实践するII	玄関暖炉前にて、ギターや歌のライブ
環境作りに取り組んでみよう	木の枝・竹などを使った箸作り
絵本でビブリオバトル	おすすめの絵本を紹介する「ビブリオバトル」を開催
ダンス映像作品「明德浮遊青年」	フラッシュモブや写真を使った映像作品の放映
自分の関心を知る、深める	学生自身の関心についてパワーポイントで発表
やはり描いてみたい	自由に描いた絵の展示会
児童福祉を学ぶ	社会福祉・児童福祉について学んだことのポスター発表
プレーパークへいこう!	四街道で開催される“森まつり2015”のPR活動
福祉の音プロジェクト～手話合唱で社会とつながる～	手話合唱の発表

2年生の12-1月

「保育・教職実践演習、こども臨床学、保育者論」発表会を終えて

石井 章仁

本学では、授業を個々に単独でとらえるだけでなく、他の授業と連携させることで学びを深めています。その中で、12月22日に「保育・教職実践演習」「こども臨床学」「保育者論」が連動した発表会が行われました。その様子を担当の石井先生よりご報告します。



1. 「保育・教職実践演習、こども臨床学、保育者論」教科群連携について

この授業連携は、これまでの2年間を振り返り、整理し、就労に向けて必要な知識、技能、学びのまとめ・体験・その他について、学生一人ひとりの“良さ”や“課題”に応じて実践し、まとめていくことを目的としています。その手掛かりとして、実習を出発点とし、「子ども臨床学」「保育者論」とも連動させながら、ほぼ終日の取り組みとして、授業を行っています。

まず、学生それぞれのこれまでの実習体験（総括レポート）を振り返ることを行いました。その後、それぞれの希望から次の4つのコースに分かれて行いました。①保育の現場に出るコース、②福祉の現場を知るコース、③これまでの実習をさらにまとめ深めるコース、④技能を高めるコース（人と協同し部分実習を行い、「Plan-Do-Check-Action (PDCA)」の過程を学ぶ+実践に役立つノートの作成)

2. 発表会

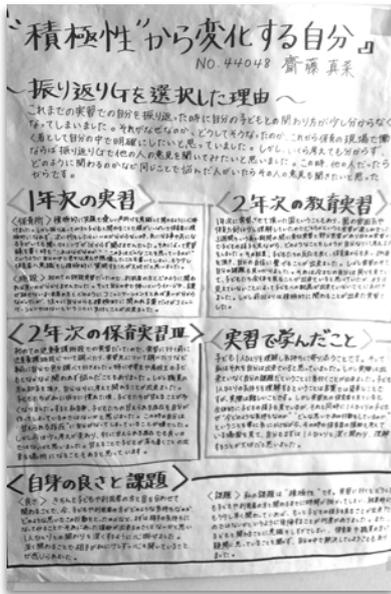
発表会では、それぞれのコースの学びの成果を発表しました。コースにより、①口頭発表、②③ポスター発表、④ビデオ発表と、発表の形式を分けて臨みました。ここでは、ポスター発表の中から、いくつか紹介をします。

ポスター例1 「否定せず受け入れること」(安西 優奈)

■乳児院での実習で、子どもを何があっても否定せず受容することを知り、大きな学びとなった。子どもが「大人に受け入れられることを感じる」ことは、成長に欠かせない大人と子どもとの信頼関係の形成につながることを知った。私は、子どもを否定せず、受け止められる保育者になりたい。



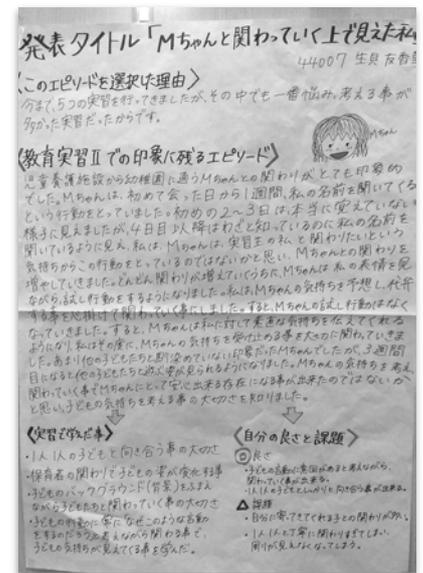
ポスター一例2 「“積極性”から変化する自分」（齋藤 真菜）



■1年次保育所：積極的に笑顔でやさしい声掛けを意識したが、保育士に聞くことができなかった。1年次施設：言葉だけがコミュニケーションではないことに気づいた。2年次教育実習：積極的にかかわり、自信が持てた実習だったが、子どもへの配慮ができていないことに気づいた。2年次施設：子どもたちの甘えに戸惑い、それを否定的に捉えていたが、それでもいいのではと思った。子どもの落ち着く場所になることの大切さを学んだ。実習で学んだこと：「1人ひとりを理解し寄り添う大切さ」実際は出来ない、自身の課題だと気づいた。

ポスター一例3 「Mちゃんに関わっていく上で見えた私」（生貝 友香里）

■5つの実習の中で最も印象に残っている教育実習ⅡでのMちゃんとのかかわりをまとめた。実習初日からずっと名前を聞いてくるMちゃん。なるべくMちゃんの気持ちを代弁することに努め、慣れてくると素直な気持ちを表現してくれるようになった。その後、他の子どもともかかわりが増えたように見え、子どもの気持ちを考えることの大切さを知った。



3. 成果と課題 M

本授業は、すべての実習（1年次：教育実習Ⅰ・保育実習Ⅰ／2年次：教育実習Ⅱ・保育実習ⅡⅢ）を行う過程を追い、実習の成果をどのように就業につなげていくかをテーマとしています。実習では、その学生の良さや課題、子どもや利用者とのかかわり方や観方、日常性、価値観など、様々な体験の中で見え隠れします。学生はそうした過去の自分と対面しながら、未来の自分の姿をデザインしていくのです。

今回の発表は、まだまだまとめの段階とは言えません。しかし、少なくとも2年間の学びの成果をまとめ始めようとするきっかけとなっていることは事実です。

PROFILE

教員名



たなか あおい
田中 葵

担当科目

体育・あそび基礎
演習（身体表現）・保育方法演習等

メッセージ

今回紹介した近藤良平氏は、ダンスの公演はもちろん、ワークショップも開いています。私が素敵だなと思うところは、近藤さんが、ダンスを通じて、どんなからだ（どんな人）も、みんな魅力的なところがあって、お互いにその魅力を高めあえると説き、実践されているところです。これを読んで実際に人とからだを動かしたくなったら、ぜひご一読を！

教員からのおすすめ

本学図書館には、各教員の専門分野や関心が一目瞭然の「推薦図書コーナー」があります。この連載では、その一端のみならず、教員から皆さんへの「おすすめ！」を紹介していきます。今回は、田中先生からの紹介です。

『からだと心の対話術』

近藤 良平、河出書房新社、2011.



「からだを動かすことが得意な人」というと、「運動神経がいい人」と思われるかもしれませんが。「私、スポーツは苦手だから、からだを動かすことも苦手」という人もいるかもしれません。でも、私は、からだを動かす楽しさは誰しもが持っているものだと思います。さらに、からだを動かすことによって切り開かれる世界があると信じています。そんな世界は、「できる・できない」といった基準だけではなく、もっと、いろんな動き、いろんな価値判断が存在します。だから、それだけ面白いし、奥深い！そして、からだに私たちに教えてくれることは、実にたくさんあるということも感じています。

そもそも、“私”が存在するとき、“からだ”はいつも共にあります。心に重くのしかかるものがある時、“からだ”はどこかが痛くなったり重くなったりもします。誰かと肩を組んだりすると、なぜか自然と楽しくなったりもします。でも、コンプレックスを抱えたり、他の人を羨ましく思ったりもします。だけど、そんなからだ（そんな私）とは一生つきあっていかなければいけません。こんなからだはどうつきあっていこう...どう人と関わっていこう...。そんな誰もが抱え得る問題について、ダンスカンパニー「コンドルズ」を主宰する近藤良平氏が、自らの体験を交えながら明快に語っているのがこの本です。さらに、ならばやっぱりからだは動かしてみないとわからないよね！と言わんばかりに、「コミュニケーションを始める前の準備運動」が写真付き解説と共に載っています。道具は一切なし、からだひとつですぐに実践できるものです。まずは一緒にからだを動かしてみてください。からだを動かすことで、何かが変わるかもしれません。

近藤氏曰く、「からだはそもそもポジティブ」。ネガティブになるのは、頭ばかりで考えすぎたり、からだの声を聞かないでいたり、と自分のからだに嘘をついているから。

最後に、本文から一節を引用。

「さあ 人間である以上 人間らしく 楽しく 心とからだを弾ませながら生きていきましょう！」

卒業生の今

明德を卒業した先輩たちは、今、どのように働いているのでしょうか。月歩学歩では、さまざまな現場で活躍する先輩たちからの今をお届けします。今回は、保育現場で働いた後、本学で助手として働く卒業生です。

◎明德を卒業後の経緯をおしえてください。

卒業後は、千葉市内の保育園で5年働きました。0歳児が5歳で卒園するまで見届けたいという思いがあったので5年働きましたが、その中で、本当に自分がしたい保育とは何だろう、私は成長できていないのではないか...と思い悩み始めました。それまでもそのような悩みは時々ゼミの片川先生に相談していましたが、一区切りついてもう辞めようと思っていた時に、短大で助手として働きながら自分をふりかえらないかと、片川先生からご連絡いただきました。

その時は、保育の仕事に戻るとは思ってはいませんでした。でも、この2年間、保育者になるために頑張っている学生の姿を見て、たくさんの刺激をもらったと同時に、自分もこんなふうに育ったのだと自分の育ちをふりかえることにもなりました。今、学生が現代社会論の授業で、「自分の立ち位置」について考えていますが、私も、自分の立ち位置についていろいろ悩みました。しかし、自分の足元を掘り下げ、ふりかえてみたら、やっぱり子どもたちと過ごす時間を大切にしたいという自分の思いに気づきました。だから、来年度からは保育現場に戻り、新設の「明德やちまたこども園」に勤めることになりました。明德は私の原点です。

◎仕事のやりがいや楽しさはどのようなことですか。

保育では、子どもたちの笑顔が一番の支えでした。子どもと一緒に喜んだり悲しんだり共感して過ごしていると、自分の心が開いていくことを感じます。子どもから教わることがとても多く、そのことがやりがいにつながっていました。

◎最後に、今後の夢や展望を聞かせてください。

来年度から現場に戻れることがまず一番にとっても嬉しいことです。就職先が新設のこども園なので、新しくつくっていく過程にいられることも嬉しいですし、学ぶことがたくさんあると思っています。

そして大きな野望としての夢は、小規模でもいいので、いつか、自分の保育園を立ち上げたいと思っています。



東 沙也加
37回生
(2007年度卒)

学生時代の一番の思い出は和太鼓サークルです。

高校でも部長をしていましたが、その時と違い、勝ち負けではなく、先生の言われた通りにすることだけではなく、みんなで良いものをつくりあげるために、腹の底から何度も何度も話し合いました。いろいろな人がいる中で、みんなで一つのものをつくりあげる楽しさや難しさを感じました。このことが、結果として、現場で人と働くこととつながりました。

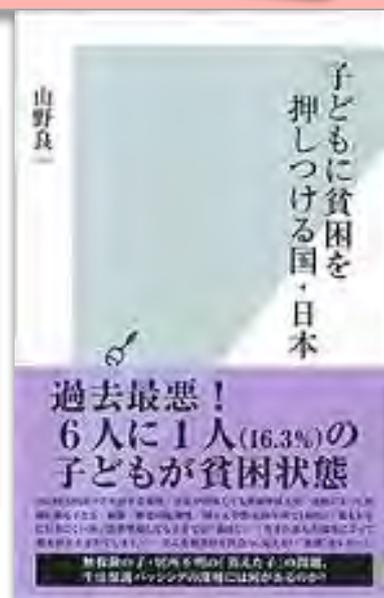
! hot news !

new movements of this month in meitoku
! 今月の明德速報 !



山野先生新刊!

山野先生の著書『子どもに貧困を押しつける国・日本』が、昨年10月に光文社から出版されました。かつて児童相談所で働いていた山野先生が、6人に1人が貧困状態にあるという日本の現状を、様々なデータに基づいて解説しています。



その出版を祝して、12月に出版記念パーティーが開かれました。

この本の紹介は別号でいたします。また、図書館にもありますので、みなさんもぜひ手に取ってみてください!



「福祉の音プロジェクト」の手話合唱のレコーディングを行いました。歌声を収めたCDは2月に完成します。お楽しみに!

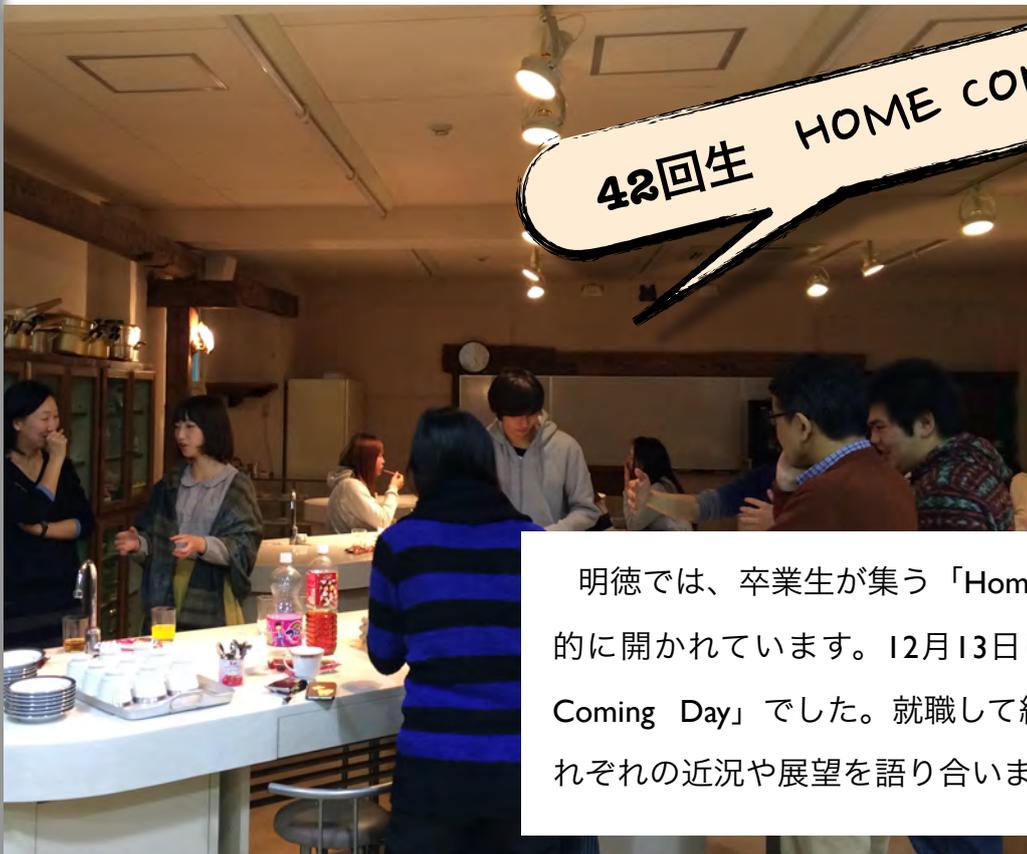
♪ Christmas Concert ♪



12月18日の放課後、教員の明石先生、事務の小出さん、そして有志の学生とによるクリスマスコンサートが、玄関前の暖炉にて開かれました。日常では見られないひとりひとりの素晴らしさが見られたコンサートです。うっとり聴き入りました。



42回生 HOME COMING DAY



明德では、卒業生が集う「Home Coming Day」が定期的に行われています。12月13日は、42回生の「Home Coming Day」でした。就職して約2年経った今、それぞれの近況や展望を語り合いました。



MEITOKU SNAP



1月、卒業アルバムの集合写真撮影を附属幼稚園の園庭にて撮影しました。卒業に向けて、アルバム委員も卒業パーティー委員も頑張っています。また、28日に卒業式の練習をしました。2月13日には、2年生の学びの集大成である「学びの成果発表会」も行われます。寂しいですが、卒業まであと少しだという実感が湧いてきます。

明徳の2月

1/26～2/7日 (土)

・保育実習Ⅰ(1年生)

11日 (水)

・31回生同窓会

13日 (金)

・学びの成果発表会

7、14日 (土)

・公開授業

16～28日 (土)

・保育実習Ⅰ(1年生)

21日 (土)

・スタートアップ・カレッジ

・43回生 Home Coming Day



編集後記

本号では、2年生から1年生へ「受け継がれるバトン」をテーマにお送りしました。特集でご紹介した「実習いってらっしゃ会」は、今年度初めて開催されたものです。2年生の「これまでに学んだことを次の代に伝えよう、受け継ごう」という想いが溢れ、私たち教員も心を動かされる会となりました。卒業にはまだ少し早いですが、「2年生の皆さんありがとう！皆さんきっと素敵な保育者になるよ！」と声を大にして伝えたいです。さて、1年生は2月末まで保育実習が続きます。どのようなことを感じ、どんな顔で学校に戻って来るのでしょうか。様々な気持ちを抱えて戻って来る学生がいると思いますが、どのようなことも受け止め、それを学生それぞれの学びにつなげられるよう、支援していきたいと思っています。(伊藤)

★INFORMATION★

明徳HPの「めいたんブログ」でも、明徳の「今」を日々発信しています。ぜひご覧下さい。

<http://chibameitoku.blog53.fc2.com>

発行：千葉明徳短期大学

千葉市中央区南生実町1412

Tel:043-265-1613

Fax:043-265-1627

mail:tandai@chibameitoku.ac.jp

URL:<http://www.chibameitoku.ac.jp/tandai.html>

編集

田中 葵

伊藤 恵里子

高森 智子



読者の皆様へ：『月歩学歩』に対するご意見、ご感想を郵便やメールにてお寄せ下さい。